

## 2.3.5 水生植物

- ・ 整理対象とした既往調査及び文献によると、宍道湖では 66 種、大橋川では 39 種、中海では 105 種、境水道では 13 種、合計 154 種が出現している。
- ・ 種子植物門について、生活型による分類をすると、沈水植物は 22 種、抽水植物は 17 種、浮葉・浮漂植物は 10 種となっている。

### ①出現種組成

表 2.21 分類群毎の水生植物出現種数

分類群	全域	宍道湖	大橋川	中海	境水道
藍色植物門	3種	1種	2種	0種	0種
紅色植物門	54種	9種	5種	45種	4種
綠色植物門	29種	15種	3種	18種	1種
黄色植物門	19種	3種	4種	14種	7種
種子植物門	49種	38種	25種	28種	1種
合計	154種	66種	39種	105種	13種

注) [中海]には[本庄水域]を含む。

※微小藻類である、渦鞭毛藻植物門(渦鞭毛藻類)、不等毛植物門(珪藻類)を除いた種数を示した。

<参考> 各分類群に含まれる主な種類

藍色植物門：ユレモ科など

紅色植物門：オオイシソウ、オゴノリ、ホソアヤギヌなど

綠色植物門：シャジクモ、アオノリ属、アオサ属など

黄色植物門：シオミドロ、ワカメ、ウミトラノオなど

種子植物門：ササバモ、コアマモ、オオクグ、ヨシなど

表 2.22 種子植物門の生活型分類毎の出現種数

生活型	全域	宍道湖	大橋川	中海	境水道
抽水植物	22種	18種	16種	15種	1種
沈水植物	17種	12種	6種	12種	0種
浮葉・浮漂植物	10種	8種	3種	1種	0種
合計	49種	38種	25種	28種	1種

注) [中海]には[本庄水域]を含む。

<参考> 各生活型に含まれる主な種類

沈水植物：ササバモ、コアマモ、マツモ、エビモなど

抽水植物：オオクグ、ヨシ、ガマなど

浮葉・浮漂植物：ヒシ、オニビシ、ヒメシロアサザ、ウキクサなど

#### 【宍道湖の水生植物の特徴】

- ・ 抽水植物では、ヨシ群落は湖岸全域に点在し、面積も比較的広い。
- ・ 沈水植物では、ササバモ群落やマツモ群落、エビモ群落などが分布している。このうち、ササバモ群落は北岸、西岸、南岸に点在しており、マツモ群落やエビモ群落は西岸から南西岸で分布が確認されている。
- ・ 浮葉植物では、ヒシ・オニビシ群落は西岸に点在している。
- ・ 藻類では、ホソアヤギヌ、インドオオイシソウなどが分布している。

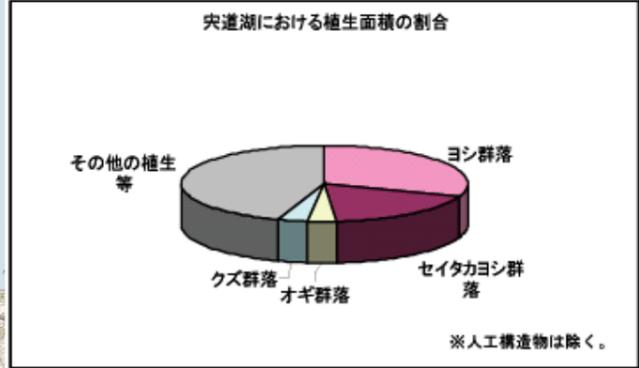
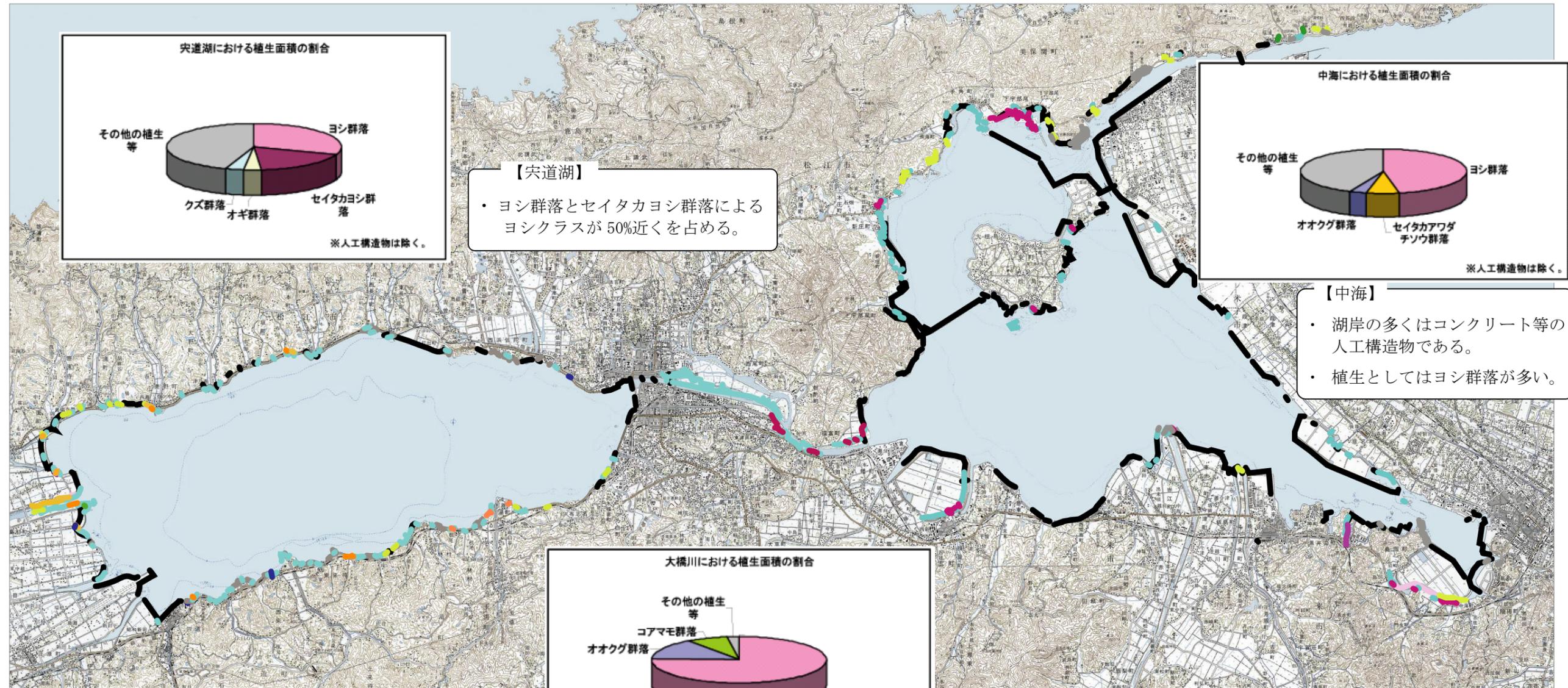
#### 【大橋川の水生植物の特徴】

- ・ ヨシ、コアマモ、オオクグが大きな群落を形成している。
- ・ 沈水植物では、コアマモ群落が大橋川下流部に分布している。岸沿いの水深 0.2~1.7m に帯状に生育しており、分布の中心は水深 0.8~1.0m となっている。
- ・ 抽水植物では、ヨシ群落が中州部分を中心に河岸の大部分を占めている。
- ・ オオクグは大橋川河口左岸に大規模な群落を形成している。

#### 【中海の水生植物の特徴】

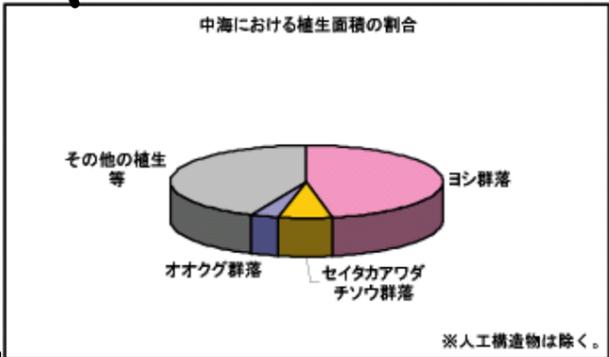
- ・ 沈水植物では、コアマモが中海沿岸に点在しており、カワツルモ群落が主に本庄水域に分布している。
- ・ 抽水植物では、ヨシ群落が湖岸全域に点在し、面積も比較的広い。また、オオクグ群落も一部に分布している。
- ・ 藻類では、ウミトラノオ、オゴノリなどが湖岸に広く分布している。

②湖岸植生と水域別植生面積



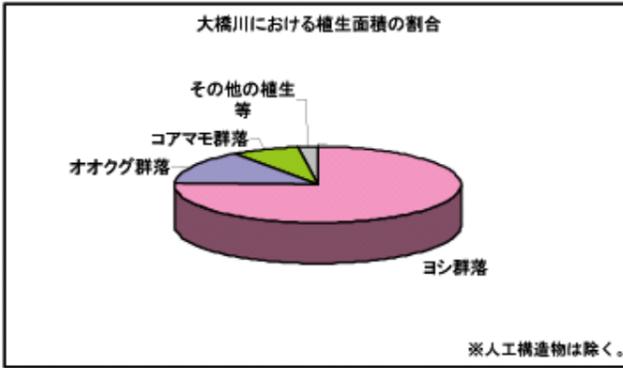
【宍道湖】

- ヨシ群落とセイタカヨシ群落によるヨシクラスが50%近くを占める。



【中海】

- 湖岸の多くはコンクリート等の人工構造物である。
- 植生としてはヨシ群落が多い。



【大橋川】

- ヨシ群落の比率が非常に高く、約75%を占める。
- オオクグ群落やコアマモ群落も多く、これらが上位3位となっている。

湖岸植生は「平成13年度河川水辺の国勢調査」より作成。

植生凡例	
ヨシ群落	コアマモ群落
セイタカヨシ群落	カワツルモ群落
ツルヨシ群落	アキミチヤナキーホソバノハマアカサ群落
オギ群落	シオクグ群落
チゴササアサスゲ群落	ヒトモススキ群落
ダンチク群落	オオクグ群落
ヤマアワ群落	ミソソバ群落
ススキ群落	ヤナキタテ群落
チゴヤ群落	オオイヌダテーオオクサキヒ群落
カラヨモキーカラハハコ群落	オオナミ群落
ヨモキーイトハキ群落	メシバーエノコグサ群落
イナリ群落	ヒメムカンヨモキーオアレチノキ群落
セイタカアワダチソウ群落	オオタバコ群落
ヤブガラシ群落	オシバーアキメシバ群落
カゼクサーオオハコ群落	カナムグラ群落
公園グラウンド	コンクリート建造物
人工草地	道路
人工裸地	自然裸地

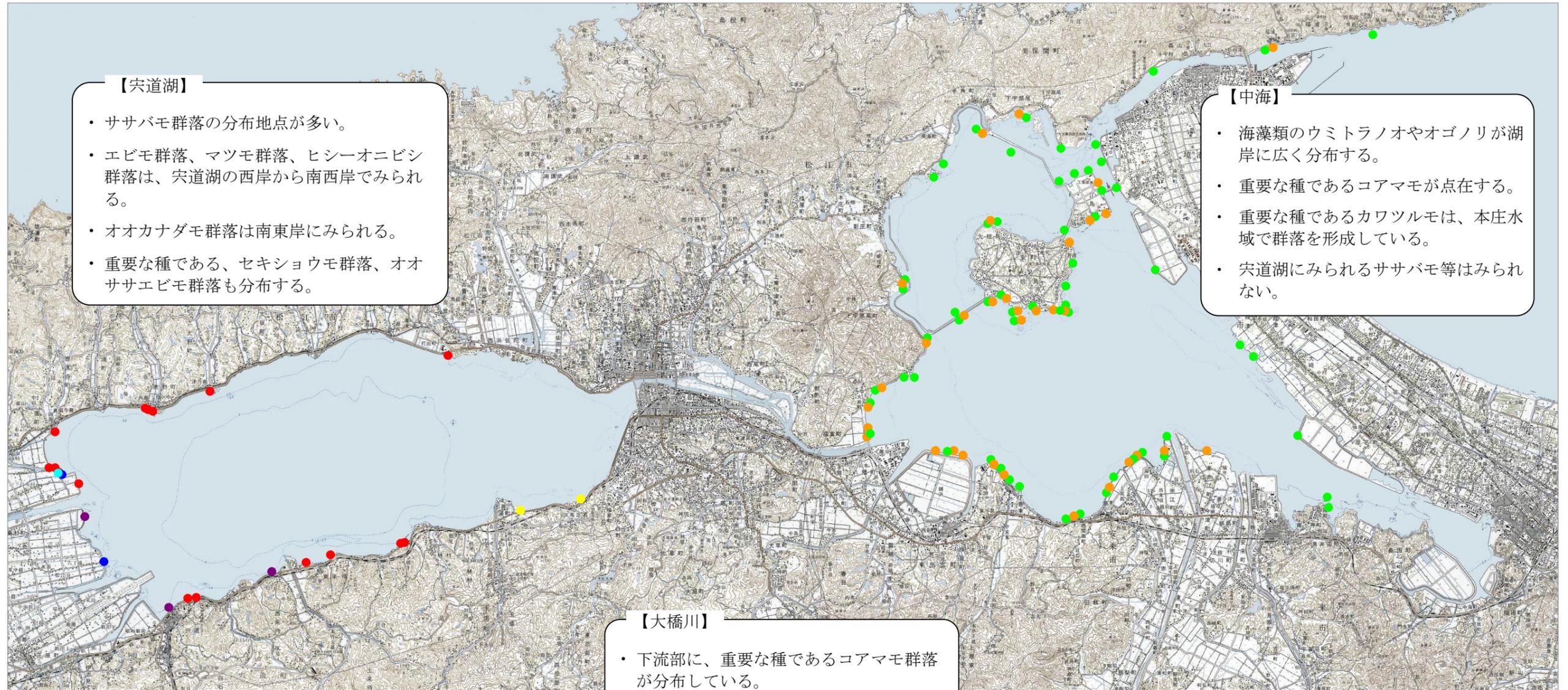
宍道湖・大橋川・中海における植生面積

	宍道湖	大橋川	中海
第1位	ヨシ群落 23%	ヨシ群落 67%	ヨシ群落 15%
第2位	セイタカヨシ群落 14%	オオクグ群落 13%	セイタカアワダチソウ群落 2%
第3位	オギ群落 3%	コアマモ群落 6%	オオクグ群落 1%
	クズ群落 3%		

注)表中の%は人工構造物を含む値。

図 2.17 湖岸の植生と水生植物の分布状況

②沈水植物、浮葉植物、海藻類の分布状況



**【宍道湖】**

- ・ ササバモ群落の分布地点が多い。
- ・ エビモ群落、マツモ群落、ヒシーオニビシ群落は、宍道湖の西岸から南西岸で見られる。
- ・ オオカナダモ群落は南東岸で見られる。
- ・ 重要な種である、セキシウモ群落、オオササエビモ群落も分布する。

**【中海】**

- ・ 海藻類のウミトラノオやオゴノリが湖岸に広く分布する。
- ・ 重要な種であるコアマモが点在する。
- ・ 重要な種であるカワツルモは、本庄水域で群落を形成している。
- ・ 宍道湖で見られるササバモ等は見られない。

**【大橋川】**

- ・ 下流部に、重要な種であるコアマモ群落分布している。
- ・ 宍道湖で見られるササバモやエビモ等は分布しない。
- ・ 中海沿岸に広く生育するウミトラノオは分布しない。

水生植生は「斐伊川水系の植物」をベースとし、文献やH15 実施現地調査より作成。

植 生 凡 例		
●	マツモ(群落)	沈水植物
●	エビモ(群落)	沈水植物
●	ササバモ(群落)	沈水植物
●	オオカナダモ(群落)	沈水植物
●	ヒシーオニビシ(群落)	浮葉植物
●	ウミトラノオ	海藻類
●	オゴノリ	海藻類

重要な種である、セキシウモ、オオササエビモ、カワツルモ、コアマモ、ホソアヤギヌ、インドオオイシソウなどの位置は示していない。

図 2.18 水生植物、浮葉植物、海藻類の分布状況

### ③ヨシの分布状況

- ・ 宍道湖から中海の沿岸域には、抽水植物のヨシが生育している。ヨシは抽水植物帯として群落（ヨシクラス）を形成し、様々な生物の生息場となっている。
- ・ ヨシ群落の分布は、宍道湖や中海では湖岸のコンクリート構造物等の存在により点在分布となっているが、大橋川では中流部から下流部に大規模な群落が見られる。

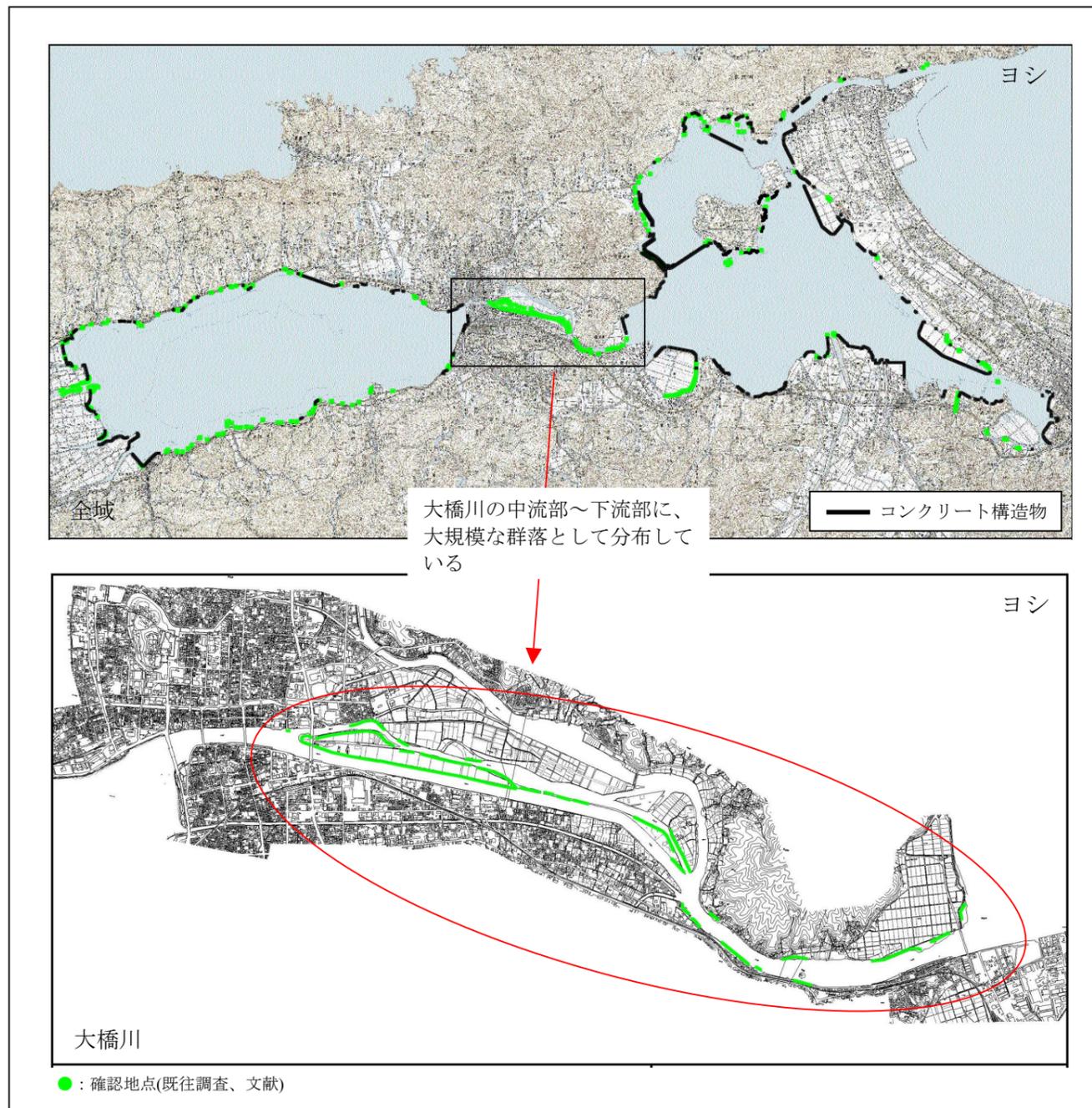


図 2.19 ヨシの分布状況